

[059_03/04] 経済学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4492922>

出版情報：経済学研究. 59 (3/4), 1994-03-10. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：

松下先生の学問

松下志朗教授は、大学院時代を実証史学の雰囲気の中で過ごされ、研究者としての道を歩まれることになった。先生のご専門は、日本経済史、とくに九州近世史の研究である。主な研究対象は、着手された順にあげると、第1は、当初から取り組まれた薩摩・奄美史に関する研究で、最初の著書である『近世奄美の支配と社会』をまとめられた。これは「徹底した文献史学」の立場から、薩摩による異文化社会・奄美への旧慣の破壊をともなう支配とそれへの抵抗とを明らかにした。第2は、1971年から本格的に着手された石高制研究で、『幕藩制社会と石高制』として結実した。この研究は、西国地方における石高制の諸事例を通して、石高制が、まず知行表示基準としての機能を先行させ、領知高の設定として成立したことを実証し、元和期以降に年貢収納基準としての機能をもつようになる、との見通しを示した。これは石高制の段階的形成を明らかにすることによって、従来の通説的理解の石高制研究に一石を投じたものである。第3は、被差別部落史に関する研究で、1975年以降あいついで論文を発表され、これらをもとに『九州被差別部落史研究』を刊行された。ここでも九州諸藩の事例を通して、被差別部落の形成が段階をおって進行したことを提示し、独自の松下説を展開されている。第4は、最も新しく着手された移民史の研究で、ハワイ大学における在外研究を機に史料発掘を進められ、まもなく移民史研究をまとめられる予定とのことである。

さらに先生のお仕事としては、史料集および県史・市史の編纂があげられる。前者では、最も初期の『七隈史料叢書』の刊行以来、多くの史料集の編纂を手掛けられた。後者では、福岡県史をはじめ多くの編纂事業に関係されてきている。また研究者としての立場から社会問題にも積極的にかかわってこられた。『入門・民衆と差別の歴史』の刊行もこのような立場からのことであり、さらに人権問題等の講演にも当たられている。

このように先生は多方面にわたって精力的にお仕事を進められ、それぞれの分野で高い評価をえている。そのお仕事ぶりは、右顧左眄されることなく、自らの道を進むというふうで、また後進に対しても適切な助言を与えるが、強制をされることはない。先生の学風は、弱者に対する共感に支えられた「徹底した文献史学」の立場という点にある。弱者に対する共感は、幼くして父を亡くされた先生の体験に根ざすもので、奄美、被差別部落、移民に関する歴史研究によく現れている。「松下史学」は、弱者に対する共感を一度徹底して客観化し、そのうえでよく渉獵された文献史料を駆使し、実証によって歴史を組み立てていくところに成立している。先生がこの「松下史学」をいっそう発展させられることを念じつつ、専門を同じくするものによる論文集を捧げて還暦を祝し、先生のいっそうの御健康と御活躍を祈念する次第である。

1993年9月

荻野喜弘

松下志朗教授経歴・業績

略 歴

- 1933年 7月 1日 鹿児島県嚙啗郡志布志町志布志に生まれる
宮崎県立都城中学校，鹿児島県立末吉中学校・末吉高等学校を経て，
- 1953年 4月 熊本大学法文学部法学科に入学
- 1955年 4月 鹿児島大学文理学部史学科に転入学
- 1958年 3月 同上卒業
- 1958年 9月 鹿児島県立川辺高等学校に勤務
- 1961年 4月 鹿児島県立大島高等学校に勤務
- 1963年 4月 九州大学大学院文学研究科（国史学専攻）修士課程に入学
- 1965年 3月 同上終了，文学修士号取得
- 1965年 4月 同上 博士課程進学
- 1967年 3月 同上 中退
- 1967年 4月 福岡大学教養部講師就任，助教授を経て
- 1971年10月 九州大学経済学部助教授
- 1985年 3月 経済学博士（九州大学）取得
- 1986年 7月 九州大学経済学部教授就任
- 1990年 4月 『九州大学七十五年史』編集委員長併任
- 1993年 4月 九州大学評議員併任

学会・社会における活動

- 1969年 9月 社会経済史学会評議員（1986年まで）
- 1978年 2月 久留米市史編纂委員（1983年まで）
- 1980年 3月 福岡県史編纂委員（1991年まで）
- 1983年 4月 福岡県立図書館郷土史料調査委員
- 1986年 4月 宮崎県史編纂委員
- 1986年11月 福岡市博物館資料収集委員
- 1986年11月 鹿児島県部落史編纂委員長（1992年まで）
- 1986年12月 社会経済史学会理事
- 1988年 4月 太宰府市史執筆委員
- 1988年12月 南島史学会評議員
- 1991年 3月 小郡市史編纂委員
- 1991年12月 北九州市同和对策審議会委員（1993年まで）
- 1993年 7月 宮崎県日之影町史監修

松下志朗教授著書・論文目録

著 書

- | | | |
|----------------|------|-------|
| 1. 近世奄美の支配と社会 | 第一書房 | 1983年 |
| 2. 幕藩制社会と石高制 | 塙書房 | 1984年 |
| 3. 九州被差別部落史研究 | 明石書店 | 1985年 |
| 4. 入門・民衆と差別の歴史 | 明石書店 | 1992年 |

編 著

- | | | |
|--------------------|------|-------|
| 1. 近世九州被差別部落の成立と展開 | 明石書店 | 1989年 |
| 2. 鹿児島県の部落史 | 鹿児島県 | 1992年 |
| 3. 西南地域史研究 第7輯 | 文献出版 | 1992年 |

論 文

- | | | |
|-------------------------|--------------------|-------|
| 1. 地租改正と農村における階層分解 | 『鹿大史学』7号 | 1959年 |
| 2. 名頭地主生成の一形態 | 『九州史学』28号 | 1964年 |
| 3. 幕末における薩藩の海運について | 『ヒストリア』44・45合併号 | 1966年 |
| 4. 薩藩における船運賃について(上) | 『九州史学』35号 | 1966年 |
| 5. 薩藩における船運賃について(下) | 『九州史学』36号 | 1966年 |
| 6. 薩藩天保改革研究史の一問題 | 『日本歴史』225号 | 1967年 |
| 7. 城下士の知行形態 | 『鹿児島市史』第1巻(鹿児島市) | 1967年 |
| 8. 近世の津野 | 『津野』(田川郷土研究会) | 1967年 |
| 9. 幕末期薩藩の農村構造 | 『九州史学』40号 | 1967年 |
| 10. 名頭地主の仕明地経営について | 『史創』9号(鹿児島大学) | 1967年 |
| 11. 幕末における門割制度と農業経営の一形態 | 『文理論叢』12巻3号(福岡大学) | 1968年 |
| 12. 西海捕鯨業における運上銀について | 『福岡大学創立三十五周年記念論文集』 | 1969年 |
| 13. 幕末に於ける薩摩藩の海運について | 『薩摩藩の基礎構造』(御茶の水書房) | 1970年 |
| 14. 久留米藩の石高制と徴租法 | 『人文論叢』2巻4号(福岡大学) | 1971年 |
| 15. 薩摩藩における菜種の生産と流通 | 『人文論叢』3巻1号 | 1971年 |
| 16. 近世初期九州における幕府領の年貢 | 『経済学研究』38巻1～6合併号 | 1973年 |

17. 福岡藩における財政経済政策の展開(1) 『経済学研究』40巻4～6合併号 1975年
18. 太閤検地と福岡藩初期の石高 『経済学研究』41巻1号 1975年
19. 福岡藩における被差別部落の石高 『部落解放史・ふくおか』創刊号 1975年
20. 幕末・維新期の藩政改革と郷土地主 『薩摩藩の構造と展開』(西日本文化協会) 1976年
21. 福岡藩における財政経済政策の展開(2) 『経済学研究』43巻3号 1977年
22. 福岡藩の焚石・石炭旅売仕組について 『近代経済の歴史的基盤』(ミネルヴァ書房) 1977年
23. 近世初期の石高と権力編成 『日本史研究』176号 1977年
24. 福岡藩の被差別部落における生産関係と身分編成 『部落解放史・ふくおか』7号 1977年
25. 近世社会における肉食について 『部落解放史・ふくおか』9号 1977年
26. 近世初期の石高と領知高 『経済学研究』42巻合併号 1977年
27. 福岡藩初期の本支藩関係と家臣団統制 『経済学研究』43巻5号 1978年
28. 秋月藩の知行制について 『経済学研究』43巻6号 1978年
29. 豊富村の土地所有と生業 『部落解放史・ふくおか』13号 1978年
30. 薩摩藩の被差別部落について 『部落解放史・ふくおか』17号 1978年
31. 久留米藩の被差別部落について 『部落解放史・ふくおか』18号 1979年
32. 佐賀藩の石高制と地米 『経済学研究』44巻4～6合併号 1979年
33. 佐賀藩の地米制について 『平凡社・歴史地名通信』3号 1980年
34. 有馬豊氏と本願寺両派問題 『西日本文化』(西日本文化協会)160号 1980年
35. 筑後国田中・有馬藩の石高と年貢 『経済学研究』45巻4～6合併号 1980年
36. 薩摩藩初期の検地と石高 『経済学研究』46巻4・5合併号 1981年
37. 正徳期の藩制改革 『久留米市史』2巻(久留米市) 1982年
38. 福岡藩の成立と初期藩政の展開・福岡藩の修史事業 『福岡県史』近世史料編(福岡県) 1982年
39. 近世前中期における藩政の展開について 『福岡県史』研究編 1983年
40. 柳川藩初期の石高と年貢 『経済学研究』49巻4～6合併号 1984年
41. 対馬藩の蒔高と間高 『経済史経営史論集』(大阪経済大学) 1984年
42. 嘉永三年毆殺事件覚書 『部落解放史・ふくおか』33号 1984年
43. 共同体と差別 『部落解放史・ふくおか』42号 1986年
44. 1880年代における奄美各港の移出入について 『経済学研究』52巻1～4合併号 1987年
45. 寺沢・唐津藩領の石高 『西南地域の史的展開』(思文閣) 1988年
46. 鹿児島藩の唐通事について 『鎖国日本と国際交流』(吉川弘文館) 1988年
47. 柳川藩の成立と初期藩政の展開 『福岡県史』近世史料編 1988年
48. 地域史としての九州 『九州—その過去・現在・未来』(九大出版会) 1988年
49. 筑後国久留米藩の藩礼 『経済学研究』55巻1・2合併号 1989年
50. 福岡藩の被差別部落(形成と展開) 『福岡の部落解放史』上(福岡部落史研究会) 1989年
51. 鹿児島藩における島差別と部落差別 『同和教育』332号 1989年

52. 南九州における部落差別の重層性	『部落解放史・ふくおか』58号	1990年
53. 中世の連続と非連続の問題をめぐって	『部落解放研究』76号(部落解放研究所)	1990年
54. 久留米藩の成立と展開	『福岡県史』近世史料編	1990年
55. 延岡藩における被差別民衆の世界	『部落解放史・ふくおか』62号	1991年
56. 旱魃と台風常襲地の生活	『日本の近世』8(中央公論社)	1992年
57. 経済史データベースによる藩専売制度の構造分析	『経済データベースと経済データ・モデルの分析』(九大出版会)	1992年
58. 鹿児島藩の仕明地開発について	『西南地域史研究』7輯(文献出版)	1992年
59. 九州部落史の万華鏡	『部落解放』357号(解放出版社)	1993年
60. 筑前における被差別民衆の諸相	『福岡県地域史研究』12号(福岡県)	1993年
61. 石高制と知行制	『西南地域史研究』9輯	1994年

史料集・目録(共編)

1. 道之島代官記集成	福岡大学研究所	1969年
2. 田村家文書	七隈史料叢書(1)	1969年
3. 福岡一円富豪家一覧表	七隈史料叢書(2)	1969年
4. 田村家仮目録	七隈史料叢書(3)	1970年
5. 筑後旧家記録	七隈史料叢書(4)	1970年
6. 薩摩藩万留	七隈史料叢書(5)	1970年
7. 小倉藩田川郡添田手永大庄屋記録集	七隈史料叢書(6)	1971年
8. 筑後地方史料仮目録	七隈史料叢書(7)	1971年
9. 久留米藩財政史料	七隈史料叢書(8)	1971年
10. 筑豊石炭鉱業史年表	西日本文化協会	1973年
11. 博多津要録上・中・下巻	西日本文化協会	1975年以降
12. 九州石炭鉱業史料目録第1～3集	西日本文化協会	1975年以降
13. 薩摩藩関係文献資料目録	『薩摩藩の構造と展開』	1976年
14. 福岡藩法令集(1)	七隈史料叢書(9)	1976年
15. 此君居秘録	七隈史料叢書(10)	1978年
16. 筑前国革座記録上・中・下巻	福岡部落史研究会	1981年以降
17. 福岡県史 福岡藩初期(上)	福岡県	1982年
18. 福岡県史 福岡藩初期(下)	福岡県	1983年
19. 福岡県史 柳川藩初期(上)	福岡県	1986年
20. 福岡県史 柳川藩初期(下)	福岡県	1988年
21. 福岡県史 久留米藩初期(上)	福岡県	1990年

22. 福岡県史 福岡勸業雑誌	福岡県	1991年
23. 松原革会所文書第一巻	福岡部落史研究会	1991年
24. 宮崎県史 史料編近世1	宮崎県	1991年
25. 宮崎県史 史料編近世2	宮崎県	1993年
26. 松原革会所文書第二巻	福岡部落史研究会	1993年
27. 経済史文献解題	大阪経済大学日本経済史研究所 (逐次刊行物)	

史料紹介

1. 「道之島船賦」について	『奄美郷土研究会報』 8号	1966年
2. 南嶋雑集上・下	『文理論叢』(福岡大学) 13巻2・4号	1969年
3. 幕府領肥後国天草郡の石炭史料	『エネルギー史研究ノート』 1号	1973年
4. 八幡製鉄所「S式炉日誌」の紹介	『エネルギー史研究ノート』 2号	1973年
5. 部落史法令(1~3)	『部落解放史・ふくおか』 17・19・33号	1979~1984年
6. 明治新聞記事の抜粋(1)	『部落解放史・ふくおか』 42号	1986年
7. 幕末における一技術者の献策	『部落解放史・ふくおか』 49号	1988年
8. 野村義一「強制収容所日記」上・下	『九州文化史研究所紀要』 33・34号	1988・1989年
9. 皮革産業3	『部落史史料選集』 2巻(部落問題研究所)	1989年

その他

1. 一山村の祭と生活	『西日本文化』 62・64・66・72号	1970・1年
2. 書評：本田彰男著『肥後藩農業水利史』	『西日本文化』 73号	1971年
3. 堀口村夜話	『部落解放史・ふくおか』 14号	1979年
4. 佐賀藩の地米制について	『歴史地名通信』 3号(平凡社)	1980年
5. 石高制研究のことも	『福岡地方史研究会会報』 23号	1984年
6. 奄美諸島における近世一明治期のイネ栽培の変容過程・コメント	『農耕の技術』 9号(農耕の技術研究会)	1986年
7. 黒田騒動	『九州と日本社会の形成』(吉川弘文館)	1987年
8. 伝染病と庶民の生活	『Museum Kyusyu』 第25号	1987年
9. 久留米藍胎漆器のおこり	『西日本文化』 235号	1987年
10. バンヤンの木陰で(1)~(5)	『西日本文化』 235~243号	1987・8年
11. 盲僧と部落民の生活	『部落の生活史』(部落問題研究所)	1988年
12. 福岡部落史研究の一端について	『角川日本地名大辞典』 月報38	1988年
13. ハワイ州資料採訪記(上)・(下)	『県史だより』 第42・44号	1988年

14. シンポジウム 部落史をどう教えるか 『部落史をどう教えるか』(NHK 出版) 1990年
15. 享保十七年の虫附損毛について 『宮崎県史しおり』 1991年
16. 書評：坂井友直編著『奄美郷土史選集』第1・2巻『南島史学』第42号 1993年

森本先生の学問

森本芳樹先生は、「大塚史学」の学徒として学究生活に進まれ、その後西欧中世経済史の研究に一貫して取り組んでこられた。先生の研究手法は、網羅的な文献検索に基づく研究動向の追跡と厳密な史料批判を踏まえた実証作業と、実に堅実で、この点は後進の育成に当たっても繰り返して強調されてきた。また、研究対象は、ライフワークの荘園制を始め、都市、都市・農村関係、市場、史料論に及んでおり、これまでの共同体説に傾き勝ちな研究姿勢に反省を促す意味からも、領主制説の立場——常に「下」からの発展を重視し、生産者に温かい目を向けられていることを忘れてはならない——から優れた業績を次々に発表されている。特に、荘園制の分野では、欧米の歴史家の追従を許さない、細大漏らさぬ研究史の追跡と史料分析とにより、ヨーロッパでも「所領明細帳研究の5人の碩学の一人」と高い評価を与えられている。

しかし、先生の対象領域は、狭義の西欧中世経済史に限らない。西欧経済史に関する深い洞察を基礎に、イスラム都市史の方向性を「ネットワーク・コスモロジー・アウトロー」の3つのキーワードに集約して明快に摘出され、西洋史・イスラム史研究者双方に比較都市史の新たな地平を開かれ、また「自然の領有」の観点から環境・開発問題に発言されるといった具合である。ただ、このことを、現代のトピックへの即席の対応と取り違えてはならない。先生の最も嫌われることに、流行への安易な追従と、我々が常にその誘惑にかられ勝ちな「おのれの領分を越えた無理な議論」への背伸びとがある。自分の理論的立場を他人に強制することなく、方法や対象時代を異にする研究者の仕事にも真剣に耳を傾け、自分の体系とすり合わせた上で発言される、真摯な社会科学者の姿勢が、先生の研究・教育を貫く太い糸となっている。その点は、本誌に寄稿された「教え子たち」の論考からも汲み取っていただけたらと思う。

先生は、現在プリム修道院所領明細帳に関する研究の総括と、欧文論文をまとめた論文集のヨーロッパでの出版とを予定されていると、うけたまわっている。最近の精力的なお仕事ぶりから判断して、1978年の著書の上梓以来構想を温められてきた、中世盛期・中世後期西欧経済についての理論的総括も、近い将来実現されるものと確信している。

堅実な手法に基づく内外学界での華々しい活躍、豊かな学識・温かな人柄を通して人をいつの間にか研究の世界にいざなう後進育成の巧みさ、的確な指針の提示により研究成果を1点に収斂させる研究会運営の卓抜さ、万事につけ研究優先の日常生活のコントロールと真摯でストイックな研究姿勢。このうちどれ一つを取り上げてみても、我々薫陶を受けた者にとって森本先生の背中、は、遠くかつ大きい。先生が常々強調されてきた、研究動向・史料分析を踏まえた論文集を捧げ、併せて先生の一層の御健康と御活躍をお祈りして、還暦のお祝いの辞に代えた

1993年9月

田 北 廣 道

森本芳樹教授経歴・業績

学 歴

1952年3月 東京都立新宿高等学校卒業
1952年4月 東京大学教養学部文科一類入学
1954年4月 東京大学経済学部経済学科進学
1956年3月 同上 卒業
1956年4月 東京大学大学院社会科学研究所
理論経済学・経済史学専門課程修士課程入学
1958年3月 同上 修了。経済学修士取得
1958年4月 同上 博士課程進学
1961年3月 同上 単位取得修了
1962年6月 同上 退学
1982年6月 経済学博士（東京大学）取得

職 歴

1962年7月 下関市立大学経済学部講師
1965年10月 同上 依願退職
1968年4月 九州大学経済学部助教授
1981年7月 九州大学経済学部教授
現在に至る

研 究 歴

1961年4月－1962年6月 日本学術振興会奨励研究生
1964年10月－1967年10月 ルーヴァン大学文学部研究生（ベルギー政府給費奨学生。指導教授 L. ジェニコ）
1967年11月－1968年1月 エクス・アン・プロヴァンス大学地中海社会研究センター研究生（同センター給費奨学生。指導教授 G. デュビイ）
1978年7月－1979年8月 ルーヴァン大学中世研究所訪問研究員（私費。相手方研究者 L. ジェニコ）
1979年9月－1980年3月 ヘント大学中世社会・経済史研究室訪問研究員（私費。相手方研究者 A. フルヒュルスト）
1983年7月－1983年8月 パリ／ルーヴァン・ラ・ヌーヴ／ヘント滞在（研究集会『メロヴィング期・カロリング期における大所領』組織委員会による招聘）
1986年10月－1987年2月 パリ高等研究院滞在（日仏科学協力事業による派遣。相手方研究者 P. トゥベール）
1987年9月－1987年10月 ゲッチンゲン・マックス・プランク歴史研究所滞在（九州大学経済学部国際学術交流振興基金による派遣）
1991年4月－1992年4月 ヘント大学中世社会・経済史研究室訪問研究員（日本学術振興会長期派遣。相手方研究者 A. フルヒュルスト）

著 書

『西欧中世経済形成過程の諸問題』木鐸社，1978年，370頁。

編 著

『西欧中世における都市＝農村関係の研究』九州大学出版会，1988年，XV+520頁。

監 修

L. ジェニコ著・大嶋誠他訳『歴史学の伝統と革新——ベルギー中世史学による寄与——』九州大学出版会，1984年，VIII+270頁。

編 訳

M. ブロック著『西欧中世の自然経済と貨幣経済』創文社，1982年，X+165頁。

G. デュビィ／M. ミッテラウアー／G. デスピィ／J. シュネーデル／R. キースリンク／H. ファン・デル・ウェー著・宮松浩憲他訳『西欧中世における都市と農村』九州大学出版会，1987年，V+300頁。

訳 書

L. ジェニコ『中世の世界』創文社，1976年，XVIII+444頁。

論 文

1. 「Polyptyques にあらわれた『週賦役』に関する考察——労働地代段階における農民層の存在形態との関連において——」『土地制度史学』2，1959年，35-48頁。
2. 「古典荘園制の解体過程」大塚久雄／松田智雄／高橋幸八郎編『西洋経済史講座』1，岩波書店，1960年，111-138頁。
3. 「サン・ジェルマン・デ・プレ修道院領の『農奴解放』について——フランス農奴制研究のための1分析——」『土地制度史学』17，1962年，40-62頁。
4. 「13世紀ベルギーにおける土地所有＝保有関係について」『下関商経論集』6-3，1963年，43-59頁。
5. 「東ドイツ封建制成立の前提——『東ドイツ植民』におけるドイツ人とスラヴ人——」『下関商経

論集』 8-1・2, 1965年, 109-128頁。

6. 「東ドイツ植民期における領主制の構造」『社会経済史学』 30-5, 1965年, 353-380頁。
7. 「『慣習法特許状』に関する基礎的考察——12・13世紀エノー伯領の場合——」高橋幸八郎／古島敏雄編『近代化の経済的基礎』岩波書店, 1968年, 53-75頁。
8. 「中世初期における領主制の諸形態——ベルギー諸地方の場合——」(1); (2); (3)『経済学研究』 34-5, 1968年, 1-39頁; 34-6, 1969年, 1-60頁; 35-1・2, 1969年, 21-41頁。
9. 「中世初期の社会と経済」『岩波講座・世界歴史』中世1, 1969年, 123-152頁。
10. “Essai d’une analyse du polyptyque de l’abbaye de St.Bertin (milieu du IXe siècle). Une contribution à l’étude du régime domanial 《classique》”, in *Annuario (Istituto giapponese di cultura)*, 8, 1970-1971, pp. 31-53.
11. 「モンティエランデル修道院土地台帳の分析——『古典荘園制』未発達の1形態——」『経済学研究』 37-1～6, 1972年, 209-229頁。
12. 「『定地賦役』考」高橋幸八郎／安藤良雄／近藤晃編『市民社会の経済構造』有斐閣, 1972年, 3-21頁。
13. 「西欧封建社会論の再検討——『古典荘園制』を中心に——」岡田与好編『近代革命の研究』上巻, 東京大学出版会, 1973年, 1-37頁。
14. 「西欧における封建的従属農民層の起源によせて——ドイツ学界の東と西——」『経済学研究』 41-6, 1976年, 1-23頁。
15. 「西欧中世初期の領主制に関する若干の論点」『経済学研究』 42-1～6, 1977年, 233-252頁。
16. 「カロリング期農村世界の新しい像を求めて。9世紀末プリュム修道院領の農民」『経済学研究』 45-3, 1980年, 1-19頁。
17. 「プリュム修道院所領明細帳(893年)のカエサリウス写本(1222年)について。西欧中世農村史料伝来の1例」『経済学研究』 46-4・5, 1981年, 91-127頁。
18. 「プリュム修道院所領明細帳(893年)の史料批判をめぐる二つの問題」(1); (2)『経済学研究』 47-4, 1981年, 1-14頁; 48-1, 1982年, 23-52頁。
19. 「サン・ベルタン修道院所領明細帳(844年～859年)をめぐる諸問題」(1); (2)『経済学研究』 48-5・6, 1983年, 49-62頁; 49-4～6, 1984年, 149-174頁。
20. 「プリュム修道院所領明細帳に追加部分はないか。シュワープによる新版に寄せて」『経済学研究』 51-1・2, 1985年, 47-85頁。
21. “Problèmes autour du polyptyque de Saint-Bertin (844-859)”, in A. Verhulst (ed.), *Le grand domaine aux époque mérovingienne et carolingienne*, Gent 1985, pp. 125-151.
22. 「ヨーロッパの荘園制。大陸」『中世史講座』 2, 『中世の農村』学生社, 1987年, 279-313頁。
23. 「プリュム修道院所領明細帳(893年)のカエサリウス注釈(1222年)について。9世紀の史料か, 13世紀の史料か」世良晃志郎編『ヨーロッパ身分制社会の歴史と構造』創文社, 1987年, 281-321頁。

24. 「9世紀西欧農村の都市形成力に関する考察——プリュム修道院所領明細帳を主たる素材として——」森本芳樹編著『西欧中世における都市＝農村関係の研究』九州大学出版会，1988年，91-150頁。
25. “Un aspect du domaine de l’abbaye de Prüm à la fin du IXe siècle et pendant la première moitié du Xe siècle. Essai d’une utilisation dynamique du polyptyque”, in W. Rösener (ed.), *Strukturen der Grundherrschaft im frühen Mittelalter*, Göttingen 1989, pp. 266-284.
26. 「ヨーロッパ中世における自然の領有」『シリーズ・世界史への問い』1，『歴史における自然』岩波書店，1989年，117-140頁。
27. “Le commentaire de Césaire (1222) sur le polyptyque de Prüm (893). Données pour le IXe ou le XIIIe siècle?” in *Revue belge de philologie et d’histoire*, 68, 1990, pp. 261-290.
28. “Considérations nouvelles sur les 《villes et campagnes》 dans le domaine de Prüm au haut Moyen Age”, in J. M. Duvosquel/A. Dierkens (ed.), *Villes et campagnes au Moyen Age. Mélanges Georges Despy*, Bruxelles 1991, pp. 515-531.
29. 「小額貨幣の経済史——西欧中世前期におけるデナリウス貨の場合——」『社会経済史学』57-2，1991年，13-32頁。
30. 「西欧中世初期都市共同体論の可能性」比較都市史研究会編『都市と共同体』上巻，名著出版，1991年，1-20頁。
31. 「西欧中世初期における三圃制度をめぐって——所領明細帳の分析から——」(1)；(2)『経済学研究』58-6，1993年，9-23頁；59-1，1993年，1-16頁。
32. “Die Bedeutung des Prümer Urbars für die heutige Forschung”, in R. Nolden (ed.), *anno verbi incarnati DCCCXCIII conscriptum. Festschrift 1100 Jahre Prümer Urbar*, Trier 1993, pp. 127-136.

小論文，研究動向・書評論文，その他

1. 「西洋経済史文献解題約30点」大塚久雄／高橋幸八郎／松田智雄編『西洋経済史講座』5，岩波書店，1962年。
2. 「古典荘園制の構造と解体に関する諸問題」『社会経済史学』31-1～5，1966年，331-342頁。
3. 「『古典荘園制』に関する最近の研究について——A. フルヒュルストの所説を中心に——」『経済学研究』34-2，1968年，49-63頁。
4. 「ベルギーにおける農業＝土地制度史研究の1動向——ベルギー農村史センターについて——」『土地制度史学』41，1968年，71-78頁。
5. 「誉田保之氏の学問的業績」『商経論集（北九州大学）』4-1・2，1968年，261-281頁。
6. 「フランス中世経済史に関する新研究——R. フォシエ『13世紀末期に至るピカルディの土地と人間』をめぐって——」『経済学研究』36-1・2，1970年，79-89頁。

7. 「世良晃志郎『歴史学方法論の諸問題』と『土地制度史学会』『土地制度史学』63, 1974年, 63-68頁。
8. 「西欧中世初期における商品・貨幣流通と都市——ピレンヌ以降ベルギー学界の成果を中心として——」(1); (2)『経済学研究』39-1~6, 1974年, 205-236頁; 40-4~6, 1975年, 137-199頁。
9. 「第二次大戦後ベルギーにおける中世都市研究——11~15世紀——」(1)~(8)『比較都市史研究会会報』1-5~3-5, 1975~1977年。
10. 「歴史研究における『中心』の役割——『ベルギー農村史センター』について——」『西南地域史研究』1, 1977年, 273-279頁。
11. 「中世・西欧」『1977年の歴史学界——回顧と展望——』『史学雑誌』87-5, 1978年, 305-309頁。
12. 「歴史研究における『学会』のあり方——ヨーロッパの事例から——」『西南地域史研究』2, 1977年, 359-346頁。
13. 「ヨーロッパにおける『学会』の現状——第10回フランス中世史家会議を中心に——」『西南地域史研究』3, 1978年, 364-372頁。
14. 「西欧・中世」国際歴史学会議日本国内委員会編『日本における歴史学の発達と現状』4, 東京大学出版会, 1980年, 411-414頁。
15. 「現在ヨーロッパ学界とドブシュの問題」『創文』199, 1980年, 2-5頁。
16. 「中世の社会と経済」『経済学大辞典』3, 東洋経済新報社, 1980年, 19-27頁。
17. 「西欧中世農村史史料の伝来について」『九州経済学会年報』1981年, 23-27頁。
18. 「古典荘園制」／「純粋荘園制」松田智雄編『西洋経済史』青林書院新社, 1982年, 45-49, 56-61頁。
19. 「西欧中世都市像の再検討」『九州共立大学紀要』17-1, 1982年, 1-10頁。
20. 「西欧中世貨幣制度概観」森本芳樹編訳『西欧中世における自然経済と貨幣経済』創文社, 1982年, iii-x頁。
21. 「解説。1) 社会・経済史研究における『自然経済』と『貨幣経済』, 2) 西欧中世前期の銀本位制と『貨幣経済』」同上, 117-141頁。
22. 「高橋史学の魅力——西欧中世史における——」『社会科学の方法』164, 1983年, 1-6頁。
23. 「史料の生命——L. ジェニコによる『ブーローニュ伯の系図』と『フリゼの記念禱設定簿』の研究——」森本芳樹監修『歴史学の伝統と革新』九州大学出版会, 1984年, 153-199頁。
24. 「西欧中世初期領主制研究の現状——1983年9月ヘント研究集会『メロヴィング期・カロリング期における大所領』をめぐって——」『史学雑誌』93-6, 1984年, 78-89頁。
25. 「歴史研究とコンピューター」『史潮』新15, 1984年, 121頁。
26. 「西洋中世及びベルギー関係項目約30点」『大百科辞典』平凡社, 1984-85年。
27. 「1960年以降ベルギー学界における中世初期都市＝農村関係に関する研究」『経済学研究』50-3・4, 1985年, 161-168頁。
28. 「1960年以降ドイツ学界における中世初期都市＝農村関係に関する研究」『経済学研究』50-5,

1985年, 45-64頁。

29. “Le polyptyque de Prüm, n’a-t-il pas été interpolé ?” in *Le Moyen Age*, 92-2, 1986, pp. 265-276.
30. 「西欧中世初期農村史研究の最近の成果と課題」『経済学研究』52-1～4, 1987年, 303-331頁。
31. 「カロリング期所領明細帳研究の成果と課題」(1);(2)『経済学研究』53-4・5, 1988年, 69-83頁; 54-1・2, 1988年, 249-270頁。
32. 「序——欧日学界状況の比較と本書成立の経緯——」森本芳樹編著『西欧中世における都市＝農村関係の研究』九州大学出版会, 1988年, iii-xv 頁。
33. 「西欧中世初期領主制研究の新しい試み——1987年10月ゲッチングン研究集会『カロリング期・オットー期ドイツにおける荘園制の構造』をめぐって——」『史学雑誌』97-6, 1988年, 59-64 頁。
34. “Etat et perspectives des recherches sur les polyptyques carolingiens”, in *Annales de l’Est*, 5-40, 1988, pp. 99-149.
35. “Towards a new conception of the urban history of the Western Middle Ages : some historiographical remarks”, in *Urbanism in Islam. The Proceedings of the International Conference on Urbanism in Islam. Oct. 22-28, 1989*, 3, Tokyo 1989, pp. 145-167.
36. 「都市史研究の新しい動向——共同研究・国際会議『イスラムの都市性』をめぐって——」『歴史学研究』607, 1990年, 64-72, 77頁。
37. 「西欧中世都市史の新しい構想を目指して」『イスラムの都市性・研究報告。研究会報告編』23, 1990年, 1-29頁。
38. 「歴史学の徒は史料を大切にしてみっと柔軟に。拙編著『西欧中世における都市＝農村関係の研究』(九州大学出版会, 1988年)への林毅氏の書評(『法制史研究』39)に異議あり」『法制史研究』40, 1990年, 385-388頁。
39. 「西欧中世前期における金と金貨」『イスラムの都市性・研究報告。研究会報告編』26, 1991年, 1-23頁。
40. “Réflexions d’un historien japonais sur le livre de Guy Bois”, in M. Bourin (ed.), *L’An Mil : Rythmes et acteurs d’une croissance* (Médiévales, 21), 1991, pp. 63-68.
41. 「報告要旨：カロリング期所領明細帳の『法的性格』」『法制史研究』41, 1991年, 391-392頁。
42. 「西洋中世の都市＝農村関係」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣, 1992年, 194-202頁。
43. 「ヨーロッパ中世都市」板垣雄三／後藤明編『事典 イスラムの都市性』亜紀書房, 1992年, 40-41頁。
44. 「(都市の研究史)ドイツ」同上, 128-131頁。
45. 「西欧中世前期貨幣史の諸問題——1960年以降ヨーロッパ学界の研究成果から——」『経済学研究』56-5・6, 1992年, 189-222頁。

46. 「ベルギー中世史学界の現況——ヨーロッパ統合の現実の中で——」『創文』338, 1992年, 7-10頁。
47. 「西欧中世初期荘園制の諸側面——最近5年間における農村史の研究状況——」(1);(2)『経済学研究』58-2, 1992年, 51-66頁; 58-4・5, 1993年, 223-241頁。

書 評

1. G. Duby, *L'économie rurale et la vie des campagnes dans l'Occident médiéval*, 2vol., Paris 1962.『土地制度史学』23, 1964年, 78-80頁。
2. 山瀬善一『南フランスの中世社会・経済史研究』『社会経済史学』35-2, 1969年, 118-121頁。
3. イギリス中世史研究会編『イギリス封建社会の研究』『土地制度史学』49, 1970年, 73-75頁。
4. 久保正幡編『中世の自由と国家(下)』, 『社会経済史学』36-6, 1971年, 96-98頁。
5. 福富正実『共同体論争と所有の原理——資本論体系と広義の経済学の方法——』『経済研究』22-4, 1971年, 396-397頁。
6. 椽川一朗『西欧封建社会の比較史的研究』『史学雑誌』82-12, 1973年, 54-60頁。
7. 今野国雄『西欧中世の社会と教会』『歴史学研究』411, 1974年, 55-59頁。
8. 堀米庸三編『西洋中世世界の展開』『史学雑誌』83-10, 1974年, 67-73頁。
9. 井上泰男『西欧社会と市民の起源』『史学雑誌』85-9, 1976年, 68-90頁。
10. 樺山紘一『ゴシック世界の思想像』『思想』633, 1977年, 438-446頁。
11. 堀米庸三『ヨーロッパ中世世界の構造』/世良晃志郎『封建制社会の法的構造』『法制史研究』28, 1978年, 276-283頁。
12. L. Kuchenbuch, *Bauern und Klosterherrschaft im 9. Jh.*, in *Erasmus*, 31-19, 1979, pp. 694-696.
13. R. Fossier, *Polyptyques et censiers*, in *Cahiers de civilisation médiévale*, 23-1, 1980, pp. 60-61.
14. 佐々木克己『歴史家アンリ・ピレンヌの生涯』『歴史と地理』321, 1982年, 41-46頁。
15. 三好洋子『イギリス中世村落の研究』『歴史学研究』520, 1983年, 47-50頁。
16. 石川武『序説・中世初期の自由と国家——国王自由人学説とその問題点——』『史学雑誌』93-9, 1984年, 104-109頁。
17. 野崎直治『ドイツ中世農村史の研究』『史学雑誌』95-11, 1986年, 97-102頁。
18. 二宮宏之『全体を見る眼と歴史家たち』『社会経済史学』53-6, 1988年, 138-141頁。

翻 訳

1. M. ブロック(仏語)「自然経済か, 貨幣経済か。二者択一的図式の陥穽」森本芳樹編訳『西欧中世における自然経済と貨幣経済』創文社, 1982年, 3-50頁。
2. M. ブロック(仏語)「中世における金の問題」同上, 51-116頁。

3. M. ミッテラウアー (独語)「古代都市から中世都市へ」(藤田裕邦と共訳) 森本芳樹編訳『西欧中世における都市と農村』九州大学出版会, 1987年, 42-70頁。
4. G. デスピィ (仏語)「9-10世紀の都市と農村——ムーズ地方の場合——」(平嶋照子と共訳), 同上, 72-122頁。